

検体検査実施料新規収載のお知らせ

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、平成 20 年 5 月 30 日付「保医発第 0530002 号」厚生労働省保険局医療課長通知により、下記の項目につき検体検査実施料が平成 20 年 6 月 1 日より適用されましたので、ご案内申し上げます。

敬白

記

1. 検査実施料新設

保医発第 0530002 号 (H20. 5.30)

—平成 20 年 6 月 1 日より適用—

項 目 名	実 施 料 (区 分)	判 断 料	備 考
涙液中総 I g E 定性	100点 (D004-6)	尿・糞便等検査 (穿刺液・採取液検査) 34点	注1) <検討中>
MDA-LDL	200点 (D007-29)	生化学的検査 (I) (血液化学検査) 144点	注2) <検討中>

注1) 涙液中総 I g E 定性は、アレルギー性結膜炎の診断の補助を目的として判定した場合に月 1 回に限り算定できる。

注2) MDA-LDL は、冠動脈疾患既往歴のある糖尿病患者で、冠動脈疾患発症に関する予後予測の補助の目的で血清中の MDA-LDL を測定する場合に 3 月に 1 回に限り算定できる。ただし、糖尿病患者の経皮的冠動脈形成術治療時に、治療後の再狭窄に関する予後予測の目的で測定する場合、上記と別に術前 1 回に限り算定できる。

【臨床的意義】

■涙液中総 I g E 定性

アレルギー性結膜炎は I 型アレルギーに基づくものであり、確定診断法のためには、臨床診断に加え結膜擦過物中の好酸球の検出が必要とされます。実際には、眼局所の好酸球の検出は検査手技が煩雑であるため、日常診療では臨床所見や血清中特異的 I g E の検索により診断が行なわれてきました。アレルギー性結膜炎では眼局所で I g E が産生されるため、涙液中の総 I g E 濃度を測定することで当疾患の診断がより可能になると期待されます。

涙液中総 I g E 定性の検査は、簡便に短時間で結果が得られるため、アレルギー性結膜炎の早期診断の補助や適切な治療薬選択等に有用性が高いと考えられます。

■MDA-LDL

LDL の酸化変性によって生じる酸化 LDL は、動脈硬化病変の形成と進展に関与しており、代表的な酸化 LDL の一つにマロンジアルデヒド修飾 LDL (MDA-LDL) があります。MDA-LDL は、動脈硬化促進的なり蛋白である small dense LDL と強く関連しており、虚血性心疾患のリスク因子として注目されています。

冠動脈疾患の既往のある糖尿病患者で検討した結果、MDA-LDL が高値の場合で冠動脈イベント（心筋梗塞・狭心症の悪化）が有意に高く、またカテーテル治療後の再狭窄のリスクが高いことが明らかになっています。これにより、血清中 MDA-LDL の測定は、冠動脈疾患既往歴のある糖尿病患者における冠動脈疾患の予防や治療効果の判定に有用であると考えられます。

* 収載項目についての詳細は担当営業部員または下記へお問合せ下さい。

インフォメーション：0298-37-2721(代)

2008-B-002